

# 西多摩農業改良普及センターからのお知らせ

## 落葉果樹の剪定について



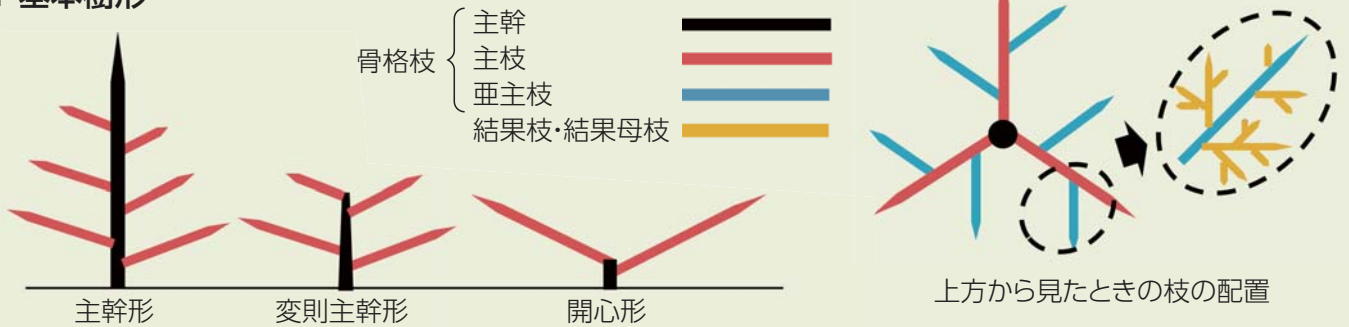
主任普及指導員 原島 浩一



### 落葉果樹の剪定について

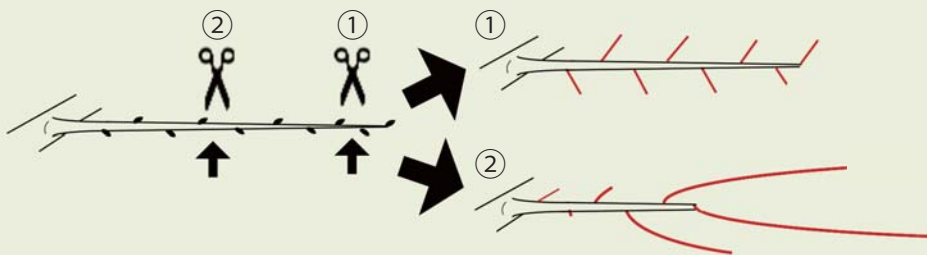
冬季はウメやカキなど落葉果樹の剪定適期です。剪定の目的は、樹形づくりのため、樹体内の養水分の流れを整えるため、安定着果させるためなどさまざまあります。そこで、剪定の基本を再確認しましょう。

#### 1 基本樹形



一般的に、落葉果樹では、初めに「主幹形」で樹形づくりを進め、樹高が高くなったら低樹高化を進めて「変則主幹形」、「開心形」へと移行していきます。ただし、ウメやモモのように最初から「開心形」で樹形をつくる樹種もあります。

#### 2 剪定前後の枝の伸び方



①のように、枝の先端付近で剪定すると短い枝が多く発生します。ウメやモモ、プルーンなどではこれら細かい枝に良い実が着きます。

枝を拡大するときは、②のように枝を大きく切り落とすと勢いの良い枝が発生します。

骨格枝には果実を成らせず、先端に勢いの良い枝を発生させます。そのためには②のように先端部に発生した当年枝(今年伸びた枝)を1/3から1/2程度の長さに剪定します。

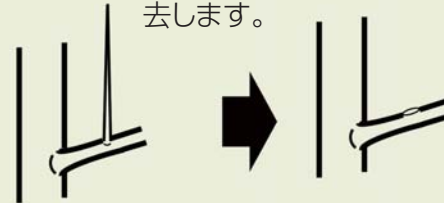
カキやグリ、リンゴなどでは、果実をならせたいとき、枝を途中で切ると花芽がなくなり、結実しなくなってしまうので注意してください。

#### 3 整理すべき枝

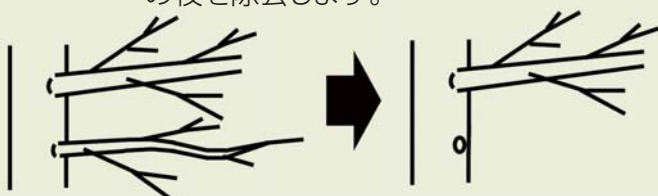
**車枝** 1カ所から複数の枝が発生していると分岐部で裂けやすくなるので1本にします。



**徒長枝** 真上に向かって徒長した枝は、発生部から先の部分を弱らせ、樹形を乱すので除去します。



**平行枝** 日陰の枝を作らないように、弱々しい方の枝を除去します。



**枝先の処理** 養水分の流れを乱さないように枝先を1本にします。



今年も剪定を実施して来年の楽しい収穫につなげましょう。